

花粉症薬の注意点

東風が吹き、梅の香りが春を運んでくる季節となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

春が近づくこの季節に毎年世間をにぎわす花粉症の正体は、スギやヒノキの花粉に対して人体が起こすアレルギーの反応です。私たちの持つ免疫反応が花粉に対して反応

することによって、くしゃみや鼻水が出て、目がかゆくなり涙が出ます。

実はこのアレルギーの反応は年齢と共に徐々に軽くなるといわれています。平均で70歳を超える症状が少なくなり、気にならなくなる方も多いようです。でも今年は何年の数倍の花粉飛散が予想されていますので、症状がある方は早めに治療しましょう。

治療には抗ヒスタミン薬（抗アレルギー剤）と呼ばれるお薬を使用します。この種類のお薬は、眠気やふらつきが発現するものがあります。それ

により足元がふらつき、転倒してしまったという例もあります。

すでに精神安定剤や睡眠導入剤などを飲んでい

に努めましょう。

この抗ヒスタミン薬はじんましんやかゆみなどの皮膚症状にも用いられることがあります。重複しないように注意が必要です。



その他にも緑内障や前立腺肥大の方の症状を悪化させる場合があります。普段からお薬をお飲みの方は、お薬手帳を医師や薬剤師に見せて、相談と確認をしてからのご使用をお勧めします。

皆さまに春の訪れとともに、一層のお幸せが訪れますように。

（薬剤師 西 美香）

薬 西 美香

[87]

大阪地区薬剤師会

です。またこの花粉症のお薬は口が渇いたり、便秘になったりするものが多いです。もともと消化器症状がある方は、水分補給を十分にしてください。症状が悪化しないよう